

特 殊 報

長崎県病害虫防除所長

平成24年度病害虫発生予察 特殊報第3号

- 1 病害虫名 ニラえそ条斑病
- 2 病原ウイルス アイリス黄斑ウイルス (Iris yellow spot virus, I Y S V)
- 3 発生作物 なら
- 4 発生場所 南島原市
- 5 発生確認の経過

平成24年10月下旬に施設栽培のなら圃場において葉身に数～10mm程度の黄白色～白色のえそ条斑を生じる症状が確認された。当所においてRT-PCR法によるウイルス検定を行った結果、Iris yellow spot virus (I Y S V) が検出され、ニラえそ条斑病と確認された。

本ウイルスによる病害は、平成8年に千葉県のアルストロメリアで初めて確認された。ならでは平成15年に高知県で初めて確認されており、九州では、平成19年に大分県、平成21年に福岡県、平成22年に宮崎県で発生が報告されている。

本県では、平成21年にトルコギキョウにおいて本ウイルスによるトルコギキョウえそ輪紋病の発生が確認されている。

6 病徴

最初、葉身に長さ数mm程度の不明瞭な退緑斑が認められ、その後はっきりとした淡黄色～白色のえそ斑点やえそ条斑を生じる。症状が進むとこれらは拡大癒合して大型えそ条斑となる(図)。葉がねじれることもある。

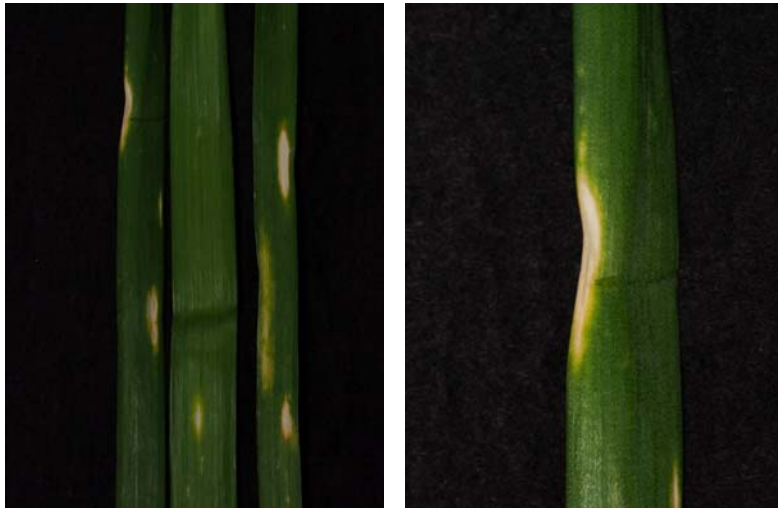


図 ニラえそ条斑病の病徴

7 伝染方法

本ウイルスは、*Tospovirus* 属のウイルスで、ネギアザミウマによって伝搬される。ネギアザミウマは、幼虫時に I Y S V に感染した植物を吸汁することにより、ウイルスを獲得し、終生伝搬能力を保持するが、経卵伝染はしない。他のアザミウマ類による伝搬は確認されておらず、種子伝染や土壌伝染もしない。また、汁液伝染はほとんどしないため、管理作業による伝染の可能性はきわめて低い。

8 防除対策

(1) 感染源の持ち込み防止と除去

ア 発病株の早期発見に努め、発見した場合は速やかに抜き取り施設外に持ち出し、土中に埋

めるかビニール袋等に入れて枯死するまで密封処理する。

イ 収穫後の残さや圃場周辺の雑草はネギアザミウマの生息・増殖源となるので除去し適切に処分する。

(2) ネギアザミウマの侵入防止と薬剤防除

ア 하우스開口部への防虫ネット設置やUVカットフィルムの展張によりハウス内への本虫の侵入を防ぐ。

イ 薬剤防除においては、本虫の薬剤感受性低下を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション散布に心がける。

ウ 施設栽培では、栽培終了後に施設内の蒸し込み処理を行い、ネギアザミウマの施設外への分散を防ぐ。

表 I Y S Vの感染が報告されている植物

科名	植物名
ユリ科	ネギ、タマネギ、ニラ、ラッキョウ、ニンニク、テッポウユリ、リーキ、バルビネ（ブルビネ）、ジャノヒゲ、オオバジャノヒゲ
リンドウ科	トルコギキョウ
アルストロメリア科	アルストロメリア
ヒガンバナ科	アマリリス、ユーチャリス、クンシラン（クリビア）、スイセン
アヤメ科	ダッチアイリス
ヒユ科	センニチコウ
アカザ科	ハウレンソウ
アブラナ科	ダイコン、ハクサイ、ブロッコリー、ミズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウ、タネツケバナ、ナズナ
セリ科	ニンジン
カタバミ科	カタバミ
キク科	チチコグサモドキ、ノボロギク
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ、トキワハゼ
シソ科	ホトケノザ
スベリヒユ科	スベリヒユ
スミレ科	パンジー
ナデシコ科	コハコベ、オランダミミナグサ、ノミノフスマ
マメ科	ヤハズエンドウ

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027